

# 平成29年度施政方針

はじめに  
平成29年3月定例議会の開会にあたり、町政運営に対する私の所信を申し上げ、議員の皆様並びに町民の皆様の「理解と協力」を賜りたいと存じます。

私は多くの町民の「ご信託を賜り、久米島町長に就任しましてからまもなく、3年を終わろうとしています。

町民からの切実な声に真摯に向き合い、直実に行政運営を進めてまいりましたが今年度も第2次総合計画の将来像「夢つむぐ島」島人みんなで織り上げる未来の実現に向け、様々な施策をスビ下感を持つて進めて参ります。

さて、国の経済状況は、長く続いたデフレからの脱却を目指し、経済の再生を最優先課題と位置づけ、「二億総活躍社会」の実現を目指し、大胆な金融施策、機動的な財政対策、民間投資を喚起する成長戦略を柱とする経済財政政策を推進した結果、雇用・所得環境の改善傾向が続いていますが、その効果が地方に及んでいるかと言えば、その実感は薄く、地方の経済環境は厳しい状況であります。国はさらに「新・三本の矢」を打ち、少子高齢化という構造問題に真正面から立ち向かい、成長と分配の好循環の実現に向け、取り組んでいます。

沖繩の経済については、外国人観光客の急増、沖繩へ立地したIT関連企業数の順調な推移、那覇空港の国際貨物取扱量の飛躍的な増加等、沖繩振興の成果が実感できる形で現れております。23年ぶりに失業率3%台を達成するなど雇用情勢も確実に改善しております。

2017年は、こうした沖繩振興の良好な流れをより一層加速させるため、「沖繩21世紀ビジョン基本計画」の後期間のスタートとなる重要な年となります。那覇空港の整備

促進をはじめ、空港・港湾の物流強化、増大するクルーズ船需要に対応する港湾整備や、観光振興に資する大型MICE施設等のインフラ整備、全ての人が安心して豊かに暮らす事が出来る社会の実現に向けて、地域医療の充実、子どもへの貧困・待機児童への対応など、医療福祉の充実にも力を入れていきます。

また、沖繩全体の底上げを図るためには、県としては離島の振興が不可欠であるとし、「離島力の向上」を図り、「ダイヤモンドのように輝く離島の力」を発揮することにより、沖繩全体のソフトパワーで沖繩の未来を築いていく必要があるとしています。

このような状況下、本町においては、海洋深層水などの自然資源を活用したまちづくり「久米島モデル」の実現を、「まちひとしごと創生総合戦略」の核となる重要プロジェクトとして位置づけ、29年度も引き続き「国際海洋資源エネルギー活用コンソーシアム」と密接に連携しながら各種関連施策を推進して参ります。また、海洋エネルギー推進に関しては、毎年ハワイ郡と交互にワークショップを開催していますが、次世代育成のための高校生教育交流に加えて、本年は産業界の交流を実施して参ります。

これまでの概念にとらわれることなく、柔軟な発想と向上心をもって、その持てる能力を最大限に発揮し、行政運営に力を注いで参ります。

以上の基本的な方針に基づき、平成29年度に実施する施策についてその骨子を申し述べて参ります。

## 1. 総合計画の推進

久米島町第2次総合計画の最大のテーマは人口減少対策です。

急速な人口減少への対応に向け、農林水産業や観光産業の振興をはじめ、新たな産業の売促進など支援を行って参ります。

## ④ 観光産業の振興

観光は個人のライフスタイルの変化により、画一された団体旅行よりも家族や友人・知人と出かける個人や小グループ化が進み、さらにインターネットの発達により個人の興味・関心にあわせて旅行内容が多様化するなか、ニーズにあった新しい旅行プログラムが求められており、久米島の豊かな自然と伝統文化など多くの優れた観光資源を活かした着地型観光商品の充実、開発による着地型観光の強化をはじめ、修学旅行の誘致など久米島町観光協会の取り組みを支援して参ります。

久米島観光において課題となる知名度不足の解消、誘客の拡大については、テレビやWEB等メディアの積極的な活用により久米島の魅力を全国に発信し、誘客に努めます。

また、野球や陸上競技、その他スポーツ合宿誘致については、久米島町スポーツコンベンション協議会を中心に関係団体と連携を図りながら取り組みます。

久米島町観光振興計画の展開により、平成27年度には観光入込客数10万人を突破しましたが、平成28年度も目標人数を上回る事が見込まれることから、平成29年度においても積極的な観光振興に取り組んで参ります。さらに、久米島観光の将来像を構築することを目的に、観光地域形成促進地域に指定されるイーフ地区及び周辺地域の観光リゾート振興に関する基本計画を策定し、計画的なリゾート地の形成に取り組んで参ります。

## ⑤ 交通の確保

離島を結ぶ航路、航空路は、住民及び交流人口にとって重要な交通手段であり、物流、観光、産業活動に欠くことのできない大きな役割を果たしています。

特に、航空路線は利用度の高い交通手段となっており、定期路線の維持確保及びジェット便の増便等、輸送体制の拡充、利便性の向上について沖繩県や航空会社に求めて参

創出、子育て環境の充実や若年層の雇用創出など早急な対応が求められており、久米島の豊かな自然、歴史、文化、伝統等を大事にしながら、未来を担う世代を育成していくことが私の使命であると考えております。

昨年6月より、「全ての世代が生き生きと将来にわたり暮らせる島」「人を惹き付ける島」を目指す体制の整備として、移住定住促進窓口「久米島 島ぐらしコンシェルジュ」を設置しました。しごと・住まい・子育てに関する情報の収集発信や移住相談などを行いながら課題に向き合っています。

本計画の実現に向けて様々な課題に対応していくためには町民・事業者・行政が「ひとつ」になり総力戦で取り組まなくてはなりません。それぞれが「自分ごと」として捉え、既存組織の枠を超え今歩み込んだ取組が促進されるよう引き続き推進体制の充実を図ります。

## 2. 産業の振興

### ① 農業の振興

農業については、農業従事者の高齢化に伴い、担い手不足の問題など経営が大変厳しい状況にあります。現状を打開するためには、国の農業政策である青年就農給付金事業の活用により、担い手育成を積極的に進めて参ります。

また、農地中間管理事業により、担い手に農地集積を進めていくと同時に栽培技術や経営能力の向上など、関係機関との連携強化を図りながら課題解決に取り組んで参ります。さらに、地域で生産された農林水産物を加工し、付加価値を付けて販売する6次産業化に積極的に取り組み地域の活性化に努めて参ります。

次に個別施策について申し上げます。

農業機械等リース支援事業」「さとうきび安定生産対策事業」によりハイベスター及び株出管理作業機械を導入し、刈り取り・肥培管理の機械化を推進します。

さらに「さとうきび優良種苗安定確保事業」により、優良種苗の確保及び農家への普及を図ります。また、町単独事業により、さとうきび振興協議会の支援、干ばつ灌水対策事業、さとうきび共済掛金助成事業、さとうきび病害虫防除事業等によりさとうきびの振興を図って参ります。

甘しょについては、昨年、沖繩県知事から拠点産地の認定を受け、生産拡大につながっております。甘しょ加工施設の稼働により、甘しょの更なる生産振興を図るとともに、「甘しょ優良種苗普及事業」により優良種苗を確保し、農家への普及と生産拡大を図ります。また、イモソウムシの早期根絶を目指して薬剤の助成を行って参ります。

花卉の振興につきましては、沖繩県花卉園芸農業協同組合と連携し、生産振興を図って参ります。

また、新たにかぼちゃの生産出荷が伸びてきており、今後沖繩県の拠点産地認定に向けて生産者と一緒に取り組んでおりますので、久米島町かぼちゃ産地協議会を中心に生産振興を図って参ります。

畜産については全国的に肉用牛取引価格の上昇が続き、生産意欲が高まっています。前年度に引き続き沖繩県の「畜産担い手育成事業」により畜舎、草地等の整備を図り、母牛の増頭に取り組むとともに「優良雌牛導入事業」により母牛の増頭及び品質向上に取り組んで参ります。

町単独事業としては「繁殖雌牛共済掛金助成事業」「優良雌牛自家保留支援事業」などにより、引き続き畜産振興に取り組んで参ります。なお、第11回全国和牛能力共進会が

題である「学力の向上」を基軸として、子ども達一人一人に確かな学力を身に付けさせるような取り組みを推進して参ります。

学力向上の取り組みとして小学校では昨年度も、国語、算数を合わせた総合正答率で、目標である全国平均を上回ることができました。今年度も、その結果を継続できるように取組を行います。中学校は国語、数学を合わせた総合正答率で県平均を超えることなどを目標とし、取り組んで参ります。

これらの目標を実現するために、全小中学校で具体的で実践的な助言のできる専門家招聘し、教師の授業力の向上のための研修会を実施します。また、基礎学力向上学習支援員を、今年度も小学校3名、中学校の2校にそれぞれ2名、合計7名配置し、基礎的な学力の定着を図って参ります。さらに、昨年度2中学校に配布した国語、数学、社会科、理科、英語5教科のデジタル教科書及びタブレットなどのICT機器を積極的に活用し、学力の向上を図ります。

教育活動の中では、人、自然、伝統文化など、地域の豊かな教育資源を活用することにより、久米島の良さを知り、ふるさとに誇りを持つてするような子ども達の育成に努めて参ります。

幼稚園においては、仲里幼稚園と清水幼稚園の2園に統廃合され、園児数のバランス格差に起因する保育内容や安全面などに対する課題の解決が図られています。今年度も、安全で充実した保育が実施できるようきめ細かな支援を推進して参ります。また、預かり保育については、仲里幼稚園、清水幼稚園において、これまで通りその充実に努めて参ります。

## ② 生涯学習の振興

生涯学習の充実を図るため、ヤングフェスティバルや新春書道展、また各種講座・体験活動事業等を展開し、幼児から高齢者に至るまで町民が生き生きと学習活動ができるよう支援して参ります。

3. 教育・文化の振興  
久米島町の明るい未来をつくるためには、人づくりが最も重要だと考えており、小中学校の学力向上に向けた教育環境整備に積極的に取り組んで参ります。久米島高校の魅力化事業の一つとして、島外からの留学生を受け入れています。また、島を訪れる観光客などにとっても欠かさない交通手段として重要な役割を担っており安全運行の維持確保に努めます。特に、70歳以上の高齢者の町民を対象に運賃無料化を継続し、外出支援を継続して参ります。

## 3. 教育・文化の振興

久米島町の明るい未来をつくるためには、人づくりが最も重要だと考えており、小中学校の学力向上に向けた教育環境整備に積極的に取り組んで参ります。久米島高校の魅力化事業の一つとして、島外からの留学生を受け入れています。また、島を訪れる観光客などにとっても欠かさない交通手段として重要な役割を担っており安全運行の維持確保に努めます。特に、70歳以上の高齢者の町民を対象に運賃無料化を継続し、外出支援を継続して参ります。

また、社会教育においては「学びの拠点」「読書環境の整備」をめざして、図書館機能を備えた複合型防災生涯学習機能施設の建設に引き続き取り組みます。

## ① 学校教育の充実

学校教育に求められるのは、変動の激しい21世紀を力強く、逞しく生き抜く「生きる力」を全ての子ども達に育むことにあります。「生きる力」を育むとは、「知・徳・体」調和のとれた子どもを育成だと考えます。その中でも、教育委員会では、本町の教育の大きな課